

12月議会(第4回定例会)一般質問から。

次世代に向けて、**後世遺産**となるように
しっかりと高め、さらなる継続へ。

速報

学校統合の 機会にこそ 通学環境の 安全と利便策を。

5期の
責任！



★新設小学校⇒通学環境とスクールバスの安全運行基準の見直し！

【質問】

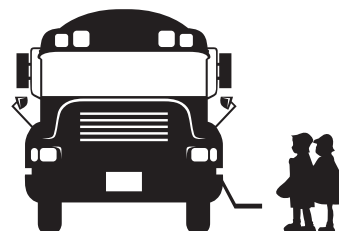
豊中地区の新設小学校を中心とした通学環境は、地形や道路事情により安全面に大きな課題が残されている。特に豊中地区においては、幹線道路や鉄道・河川による分断が様々なリスク要因となりかねない。国道11号の4車線化での交通量増加は、東側からの通学における横断歩道や迂回路での事故の懸念。また西側からの通学においては鉄道や河川による分断が多く、安全な動線が得にくい状況となる。現在の通学支援は新設校への距離を基準としているが、ルート上での安全面でのリスク把握が不可欠であることに対する考えを問う。

【答弁】

教育委員会が保護者から意見を聞き、豊中地区学校再編統合準備会で危険箇所を洗い出し、関係機関へ改善要望を出すとともに、改善できる箇所は開校までに整えていく。道路整備も通学環境の改善という視点で、開校したら完了ではなく、開校後も継続して安全対策や危険箇所の整備に努めていく。

新設小学校は校区の中心に位置し、他の公共施設や住宅地が密集していること。国道4車線化も進んでいることから、1年生に限り小学校から半径1.5km児童にもスクールバス利用が通学部会で承認された。総合的に捉えてスクールバスの運行は、通学リスク回避に重要な手段だけに、豊中校区以外でも運行基準や通学支援の在り方を柔軟に見直していく。

子供たちを見守ろう！



12月議会(第4回定例会)一般質問から。

次世代に向けて、**後世遺産**となるように
しっかりと高め、さらなる継続へ。

速報

持続可能な 流域治水整備で 防災機能と 経済効果へ。

5期の
責任！



★三豊市の流域治水⇒整備を防災・環境・産業の一体で捉える！

【質問】

三豊市独自の脱炭素社会の構築へ、温室効果ガスの削減にとどまらず、自然の持つ吸収量を増やすなど環境との共生を図ることが、地域の価値を高める環境整備の鍵になると感じている。特に山間部に降った雨水を「集めて流す」のではなく、森林・農地・ため池・遊水地などを活用し「溜めて流す」ことで緩やかに排水していく「流域治水」の考え方を積極的に採り入れることはできないか。これにより激甚豪雨にも強く、持続可能な地域経済にも波及する治水整備の考えを問う。

【答弁】

上流域にある森林は炭素吸収源だけでなく、雨水の浸透促進や土壌流出防止につながり、緑のダムとも称される。平野部に広がる水田も同様に炭素貯留機能を発揮し、流域全体にある資源を活用したカーボンオフセットの新しい取り組みは、持続可能性を高める有効な手段だと認識している。

地域の市民とともに、川上から川下まで一体として、脱炭素の視点と循環と防災の両立を念頭に、流域全体の治水の実現、持続可能な強いまちづくりへ取り組みを強化していく。

財源としては、山から海まで多くの分野にまたがるため、効率よく現場に立脚した「分野別の横断型のプロジェクト」として、財源を多層的に組み合わせて確保していく。



たくま まさし後援会事務所

志保の会【連絡先】〒769-1507 三豊市豊中町岡本270

Tel 0875-56-6113 Fax 0875-62-5914

詫間まさしの日記帳

<http://www.8108.jp>

